

## 令和 7 年度「学校評価アンケート」の結果

日頃より本校の、教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

1月に実施しました令和7年度の学校評価アンケートにつきまして、ご回答いただいたデータを集計し、今年度の取組の「成果と課題」を検証しました。さらに「今後の対応策」を検討しましたのでご報告いたします。

なお、HPにも掲載していますので、ご覧ください。

| 評価項目       | 令和7年度の取組についての成果(○)と課題(▲)、今後の対応策(☆)   |
|------------|--|
| まなびの保障     | <p>○児童にとって分かりやすく、楽しく学べる授業づくりを心がけたことで、学習への意欲が高まり、授業の流れが明確であることが児童・指導者双方の安心感につながった。</p> <p>○全校遠足、かがやけ四つ葉運動会、ロードレースなどの学校行事では、感想発表や振り返りシートを活用することで、行事で得た学びが日常生活に生かされる姿が見られ、学習と生活が循環する良い流れが生まれた。</p> <p>○統合初年度で横田地区中心のふるさと教育となったが、1・2年生の金言寺訪問、4地区の方々との昔遊び交流会、秋のおもちゃ発表会など、地域を広く捉えた活動を実施でき、次年度のふるさと教育の充実につながる有意義な取組となった。</p> <p>▲登校バスの時間によって、全員が落ち着いて朝読書を行うことは難しい。</p> <p>☆登校バスの到着時間のばらつきを踏まえ、登校した児童から朝の準備を整えた後、速やかに読書や連絡帳記入などの落ち着いた活動に取り組みめるよう運用を工夫し、全員が集中して朝の学習に入れる環境を整える。</p> <p>☆年間を通してどの程度教職員同士で研究授業を、参観し合うかを年度当初に決め、計画的に研究授業を実施する。また、指導案等の形式を見直し、負担を軽減しながら授業改善につながる形を検討する。</p> <p>☆次年度は地域連携コーディネーター(CN)が小学校に配置されるため、地域との渉外や地域資源の発掘を計画的に進める。CNを中心に地域とのつながりを広げ、学習活動に生かせる体制を整える。</p> |
| こころの保障     | <p>○教育相談を年2回から3回に増やしたことで、児童理解を深める機会が増え、個々の課題や成長をよりの確に把握できた。</p> <p>○職員会議で児童の情報共有の時間を設けたことで、気になる児童への対応が迅速かつ組織的に行えるようになった。</p> <p>○陸上練習や連合体育大会で頑張る5・6年生に対し、4年生が黒板に応援メッセージを書いたり、5年生が手紙で励ましを伝えたりするなど、異学年の子ども同士が互いの努力を認め合う温かい関係づくりが進んだ。</p> <p>▲保護者への人権啓発活動が十分に行えず、学校と家庭が共通認識をもって取り組む体制が十分に整わなかった。</p> <p>☆人権に関わる授業公開と保護者向け研修会を実施し、学校と家庭が共通理解をもって人権教育を進められる体制を整える。</p> <p>☆校内支援委員会を5月中旬と10月に設定し、にこサポや通級の利用状況を早期に確認・見直す機会とする。また、年間を見通した校内支援委員会の計画を作成し、必要な支援を速やかに検討できる体制を整える。</p>   |
| いのちの保障     | <p>○ロードレースの取組が充実し、児童が目標に向かって努力する姿や体力向上への意識が高まった。</p> <p>○栄養教諭と連携し、学期ごとに給食指導を実施できたことで、食育の視点から健康な生活習慣づくりを支える機会が増えた。</p> <p>▲スマイルチャレンジ等を活用した生活習慣やメディア接触に関する啓発・指導が十分に行えず、児童の生活リズム改善に向けた働きかけが弱かった。</p> <p>☆ロードレースで得られた成果を体育授業や短期間の取組に生かし、計画的な体力づくりを進める。その内容を体力向上計画に位置付け、学校全体で継続的に取り組む。</p> <p>☆スマイルチャレンジの結果を児童会に共有し、外遊びやボードゲームなどメディアに頼らない生活改善策を児童主体で企画・発信する。また、学校保健委員会を通してメディア接触と生活リズムの関係について児童・保護者・教職員の共通理解を深め、家庭と協働して改善を図る。</p> <p>☆児童が行った活動の結果をもとに、個別指導・集団指導を計画的に行う体制を整え、主体的な学校づくりを促進する。</p>   |
| と開かれた学校づくり | <p>○幼稚園や児童クラブと連携し、相談しやすい関係を築くことができた。交流活動も快く受け入れていただき、地域と学校が協働して子どもを育てる体制が進んだ。</p> <p>▲電話対応の際に職員が名乗らない場面があり、誰が対応したか分かりにくいことがあった。</p> <p>▲電話回線が1回線のみのため、混雑時に対応が遅る場面が生じた。</p> <p>☆電話対応時には必ず名前を名乗ることを徹底し、対応者が明確になるようにする。</p> <p>☆電話回線の増設が難しいため、次年度導入される欠席連絡アプリの活用を促進し、朝の電話集中を緩和する。</p>   |
| 信頼される教職員   | <p>○委員会からのタイムカードデータをもとに分析した結果、12月は19時までの退勤率が高く、働き方改革の成果が見られた。</p> <p>○職員会議の年間計画を事前に共有したことで、各担当が見通しをもって準備に取り組むことができ、会議運営の効率化につながった。</p> <p>▲4月は長時間勤務が常態化しており、業務の偏りや年度初めの負担が課題である。</p> <p>☆業務の標準化・分散化、会議の効率化、ICT活用を進め、全教職員が安定して19時まで退勤できる体制を整える。</p> <p>☆会議資料や連絡事項はサイボウズで事前共有し、会議中の説明時間を削減することで、会議の質と効率をさらに高める。また、年度初めの業務を洗い出し、学年・分掌間での再配分を検討し、4月の負担軽減を図る。</p>   |

